

厚生労働事務次官メッセージ



厚生労働事務次官 村木 厚子

「ゆりかごから墓場まで」ということばがありますが、厚生労働行政は生まれる前のお母さんのおなかの中からお墓の中まで、一人ひとりの人生に寄り添う、国民に最も身近な行政です。予算は、およそ 30 兆円、国の一般歳出の約半分を占めます。

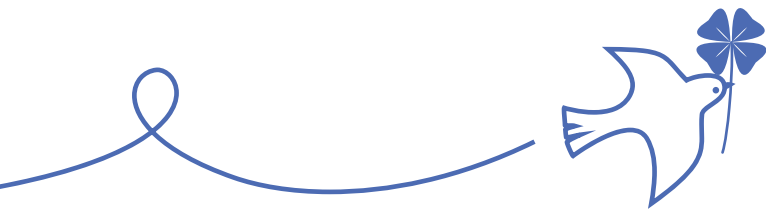
これからの日本を考えると、避けて通れないのが少子高齢化です。働き手は減り、医療、介護、年金といった社会保障の負担はどんどん大きくなっていきます。厳しい未来が待っているというのが大方の見方ですが、私は悲観する必要はないと思っています。それは日本には大きな潜在パワーがあるからです。

日本は世界の中でもとりわけ女性の活躍が遅れている国です。子育て支援を充実し、男女の働き方を見直してワーク・ライフ・バランスを実現すれば、多くの女性が生き生きと活躍できます。「共生社会」の理念が広がれば、活躍する障害者ももっと増えるでしょう。世界一の長寿国である我が国で、高齢者の「出番」を創ることに成功すれば、そのパワーは計り知れません。「全員参加」を実現し、人の力を伸ばし、多様な活躍の場を創ることが厚生労働行政の大きな課題になります。

社会保障を充実し、社会の支えをしっかりとしたものにすることも重要です。世界に誇ることでできる国民皆保険、皆年金の仕組みを維持しつつ、高齢者、障害者をはじめ住民が健康で安心して暮らせ、子育てを楽しめる「地域」を創るために、制度を地方公共団体や関係団体とともに総合的に組み立てていくことが厚生労働行政のもう一つの大きな課題になります。

こうした課題に取り組むため、厚生労働省では約 32000 人の職員が力を合わせて働いています。国民のニーズを的確にとらえる感性、良い政策を立案できる企画力、そして国民とともに政策を考えていくための説明力・発信力を高めて、国民に信頼される仕事をしていきたいと思っています。

ひと、くらし、みらいのために



Contents

プロフィール	P.3
部局紹介	P.5
組織図	P.33

日本を支える大きな力

厚生労働省の使命は、人々が安心して充実した暮らしを送ることができるようにすることです。

そのために、医療、介護、年金、労働、子育て、生活保護などの、一人ひとりの生活に密接にかかわる分野の制度を所管しています。

毎日の暮らしで起こり得る様々なリスクから国民を守る制度をしっかりと運営していくこと。

一生涯、安心できる社会保障の充実や労働環境の整備に取り組むこと。

すべての人々が明るくいきいきと働くこと。

これらを実現するために、厚生労働省は将来を見据えた施策を、進めています。